

長崎歴史文化博物館収蔵「県庁文書」等に見る長崎県水産講習所の草創期について（その1）



現在の長崎鶴洋高校（長崎市末石町）

長崎県立長崎鶴洋高等学校（前・県立長崎水産高等学校）はその前身であった長崎県水産講習所の創立から数えて今年で110周年を迎えます。しかしながら長崎県水産講習所については、北松浦郡平戸町（現・平戸市）に明治41（1908）年に長崎県水産試験場敷地内に設置されたという事実のほかには今まで一般にほとんど知られていなかったように思われます。

そこで長崎歴史文化博物館に収められている明治期の行政文書、いわゆる「県庁文書」を調査したところ、その母体となった長崎県水産試験場を含む当時の詳細を記した文書綴り「明治三十七年～四十三年 水産課事務簿 試験場雑之部」が存在していました。また「長崎県公報」にも長崎県水産講習所に関する県令・告示を見ることができました。今回はこれらの資料を見ながら、水産県長崎の礎を築いた長崎県水産講習所の平戸における草創期について述べてみたいと思います。

□ 長崎県水産講習所の創立について

明治維新を経て、我が国の水産業も近代化へ舵を取ることになりますが、なかでも急務とされたのは水産に関する専門的な知識・技術を備えた漁業従事者の育成でした。そのなかで明治30（1897）年に官立水産講習所（現・東京海洋大学）が設立され、また明治32（1899）年には農商務省より各府県に対し「府県水産講習所ハ一府縣ニ一箇所ヲ限り設クルコトヲ妨ケス」とする府県水産講習所規定（農商務省令23号 明治32年8月1日官報）が出されました。それにもかかわらず明治40年の時点で水産講習所を有していたのは石川県・京都府・富山県のわずか3府県でした。

目の前に広大な漁場と豊富な水産資源を抱える長崎県ですが、その設置が検討されるようになったのは、県会（県議会）の記録をみると明治39（1906）年のことでした。ある議員が「長崎県ニ水産学校ヲ設置セスシテ他県ノ水産学校ニ県費生ヲ派遣スルハ実ニ面目ナシ、県当局ハ県会ノ督促ヲ待ツテ設立ヲ計画スル考ヘナルヤ」と発言しています（「長崎県議会史」第2巻より）。当時、水産講習所および水産学校を持っていなかった長崎県は県費を用いて官立水産講習所と福井県立小浜水産学校へ生徒を派遣していたのです。この議員はこの点を批判し、県立の水産講習所設立を促したのです。

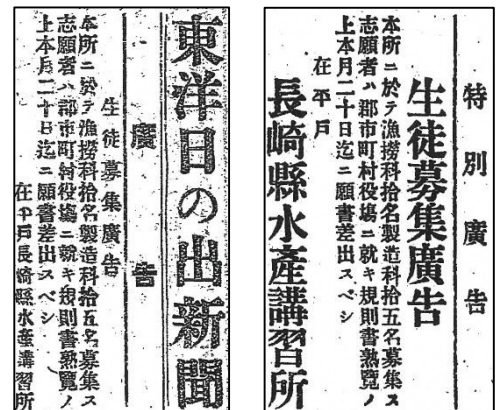
この議論をきっかけに長崎県は水産講習所設立へ本格的に動き出し、明治40（1907）年の県会において水産講習所の新設、それにとまなう小浜水産学校への派遣打ち切りと官立水産講習所への派遣生の減員が決まりました。

翌、明治41（1908）年7月31日付長崎県令第59号で「長崎県水産講習所規定」が制定され（長崎県公報号外に掲載）、府県立水産講習所としては全国で4番目となる長崎県初の水産教育機関が誕生することになったのです。この規定の一部を以下に示してみましょ。現在でいうところの学則（教務内規および生徒指導懲罰規定）的な性格を有するものだったようです。

長崎県水産講習所規定（抜粋）

- 第一条 本所ハ水産ニ関スル学理及技術ヲ授ク
- 第二条 本所ニ漁撈科製造科及遠洋漁業科ヲ置ク
- 第四条 修業年限ハ漁撈科及遠洋漁業科ハ各貳ケ年製造科ハ一ケ年トス
- 第五条 各科募集ノ人員時日其他募集ニ関シ必要ナル事項ハ毎年之ヲ定メ広告スヘシ
- 第六条 本所ハ生徒ニ対シ学資ヲ補給ス 但シ学資補給規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十二条 入学者ノ資格ハ漁撈科及製造科ニ在リテハ年齢十六歳以上ニシテ高等小学校卒業又ハ之ト同等以上ノ学力ヲ有シ体格検査ニ合格シタルモノニ限り遠洋漁業科ニ在リテハ漁撈科ヲ卒業シ体格試験ニ合格シタルモノトス
- 第十三条 入学志願者ノ数募集人員ニ超過セルトキハ前条程度ニ依リ学力ヲ試験ノ上選抜ス
- 第二十五条 規則若ハ命令ニ違反シ又ハ怠惰不品行其外生徒タルノ本分ニ背ク行為アルトキハ所長之ヲ懲罰ス
- 第三十条 臨時試験ハ一学年一回以上臨時ニ之ヲ行ヒ学年試験ハ毎学年ノ終ニ之ヲ行フ
- 第三十三条 試験及第点ハ総平均六十点以上及ヒ各学科ノ得点五十点以上実習得点十点上トス。但学科ノ得点ハ一科目ニ限り四十点以上五十点未滿ノ得点アルモ及第ヲ妨ケス
- 第三十八条 授業料ハ之ヲ徴収セス

この第五条に関して、長崎歴史文化博物館に収蔵されている「明治三十七年～四十三年 水産課事務簿 試験場雑之部」（県書 17 204-2）には、水産講習所生徒募集広告原稿について県水産課とのやりとりが残されていました。これにもとづき8月初旬、長崎新報、東洋日の出新聞、九州日の出新聞、鎮西日報、長崎新聞の5紙に生徒募集広告が掲載されます〔右図〕。このときの募集人員は漁撈科10名、製造科15名でした。遠洋漁業科については第十二条に示されているように、漁撈科の卒業を条件としていますのでこの時点での募集はありませんでした。



当時の生徒募集広告（明治41年8月8日）
左：東洋日の出新聞 右：長崎新聞



長崎水産高校発祥地の碑（平戸市）

同年9月12日、北松浦郡平戸町大字平戸岩の免字亀岡

（現・平戸市岩の上町）の長崎県水産試験場敷地内において漁撈科・製造科・遠洋漁業科の3科からなる長崎県水産講習所が産声をあげました。最初の入所生の内訳は、漁撈科が長崎1名、北松浦5名、西彼杵1名、東彼杵1名、南高来2名の計10名、製造科が対馬2名、壱岐1名、北松浦4名、南松浦1名、西彼杵6名、南高来1名の計15名でした。ちなみに卒業生名簿で確認したところ、第1回生で最終的に卒業できたのは、漁撈科6名、製造科12名でした。（その2へ続く）